



2020年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月10日

上場会社名 東海汽船株式会社

上場取引所 東

コード番号 9173 URL <http://www.tokaikisen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山崎 潤一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 倉崎 嘉典

TEL 03-3436-1131

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	6,792	21.5	319		197		132	
2019年12月期第3四半期	8,652	2.1	60	71.2	138	52.1	139	38.2

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 217百万円 (%) 2019年12月期第3四半期 108百万円 (47.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	60.44	
2019年12月期第3四半期	63.77	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	21,254	5,031	23.4
2019年12月期	20,095	5,293	26.0

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 4,970百万円 2019年12月期 5,215百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期				20.00	20.00
2020年12月期					
2020年12月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は12月31日を期末配当基準日と定めておりますが、現時点では期末配当予想額は未定であります。

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,850	20.4	620		520		520		236.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期3Q	2,200,000 株	2019年12月期	2,200,000 株
期末自己株式数	2020年12月期3Q	5,151 株	2019年12月期	5,140 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期3Q	2,194,855 株	2019年12月期3Q	2,194,931 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信[添付資料]3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・期末の配当予想につきましては、今後も経営環境に不確定要素が多いため、現段階では前回発表同様に未定とさせていただきます。なお、予想額は第4四半期の状況を見極め速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により、景気は依然として厳しい状況にあります。持ち直しの動きがみられます。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを上げていく中で、各種政策の効果等もあって持ち直しの動きが続くことが期待されます。ただし、国内外の感染症の動向や今後の消費動向等の影響を注視する必要があります。当面不透明な状況が続くものと見込まれております。

当社グループでは、4月以降、金融機関からの借入等で流動性資金を確保し、利用客の需要に合わせた船の減便や役員報酬の一部自主返上、諸費用や設備投資の抑制等のコスト削減、港湾施設使用料等の支払い猶予に加えて、雇用調整助成金や各種補助金、協力金等の活用に努めました。また、消毒の徹底、マスクの着用、三密の回避、船内抗菌コーティング、空調の抗菌フィルターの取付け、乗船時の検温実施など感染拡大防止に取り組み、お客様と従業員の安全確保を図りました。

このような状況の下、今後とも安全・安心・快適な船旅を提供するとの基本方針に沿い、6月に三代目となる新造貨客船「さるびあ丸」を、7月に新造高速ジェット船「セブンアイランド結(ゆい)」を就航させました。

主力の海運関連事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、旅客数は大幅に減少した一方で、公共工事等の増加に伴い貨物輸送量は順調に推移しました。この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、旅客数の減少により売上高は67億9千2百万円(前年同期86億5千2百万円)、営業損失は3億1千9百万円(前年同期営業利益6千万円)、経常損失は1億9千7百万円(前年同期経常利益1億3千8百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億3千2百万円(前年同期純利益1億3千9百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

《海運関連事業》

主力の海運関連事業の旅客部門は、東京諸島の島や海などの豊かな自然と、よりお客様のニーズに合った「東京の島」ならではの企画商品並びに会社創立130周年記念プランを継続して造成し、営業活動と宣伝活動に取り組みました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、4月の緊急事態宣言以降、観光需要・ビジネス需要等は激減し、6月の都道府県を跨ぐ移動が解除されて以降は、徐々に回復傾向にありましたが、7月から8月にかけての感染再拡大の影響を受けて、当社の年間最大のピークである7月～9月においても東京諸島各島の来島自粛が続く、低水準にとどまりました。また、東京湾の夏の風物詩であった東京湾納涼船は、感染防止の観点から本年は運休としました。この結果、全航路の旅客数は過去に例を見ない大きな減少となり、27万4千人(前年同期70万1千人)となりました。

一方、貨物部門は、生活関連品目輸送の品質向上など、お客様の利便性と集荷効率の引き上げを引き続き図りました。また各島の公共工事等の動向を注視し、集荷に遺漏がないように取り組んだ結果、工事関連品目と島嶼発の廃棄物の輸送量が伸び、貨物取扱量は全島で21万6千トン(前年同期20万2千トン)となりました。

この結果、当事業の売上高は、57億3千3百万円(前年同期65億2千3百万円)、営業利益は2億2千1百万円(前年同期営業利益3億7千5百万円)となりました。

《商事料飲事業》

当事業の中心となる商事部門は、貨物部門並びに島内外の取引先との連携を密にし諸工事の情報を積極的に収集したことにより、島嶼向けセメントの販売は堅調に推移しましたが、旅客数の大幅減少により竹芝売店や船内レストラン等の販売が大きく減少しました。この結果、当事業の売上高は8億8百万円(前年同期11億3千6百万円)、営業利益は6千4百万円(前年同期9千9百万円)となりました。

《レストラン事業》

東京湾周遊のレストランシップ事業は、お客様のニーズに合った企画提案や営業活動の強化を図りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2月よりキャンセルが続出しました。4月の緊急事態宣言後は休業により損失が膨らみ、老朽化した船舶の維持費用を考慮すると今後の事業継続は困難と判断し6月末をもって事業撤退、30年間の営業に幕を下ろしました。この結果、全クルーズの利用客数は7千人(前年同期7万8千人)となり、当事業の売上高は6千7百万円(前年同期6億4千2百万円)、営業損失は1億9千1百万円(前年同期営業損失7千万円)となりました。

《ホテル事業》

大島温泉ホテル事業は、大島の豊富な海の幸の料理・高品質の源泉掛け流し温泉・露天風呂からの三原山の眺望やホテル屋上に星空を観望できる「三原山テラス」の施設など、「島の魅力」を前面に押し出した営業活動を行いました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月中旬以降断続的に休館し6月の都道府県を跨ぐ移動の解除後は徐々に回復したものの挽回には至りませんでした。この結果、当事業の売上高は1億4千5百万円（前年同期3億3百万円）、営業損失は3千7百万円（前年同期営業利益2千4百万円）となりました。

《旅客自動車運送事業》

当事業の中心となる大島島内におけるバス部門は、貸切バス安全性評価制度三ツ星認定のもと、安全運行に努めてまいりました。「椿まつり」においては、季節の人気定番商品の「国際優秀つばき園」を巡るコースのほか、フォトスポット「地層大切断面」へ案内するバスツアーを加えて企画商品の充実を図り、利用客の獲得に注力しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3月下旬以降来島客が大幅に減少したため路線バス及び定期観光バスを一部運休・減便としコスト削減に努めましたが、需要は回復しませんでした。この結果、当事業の売上高は1億8千4百万円（前年同期2億5千3百万円）、営業損失は3千8百万円（前年同期営業利益2百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債および純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は212億5千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億5千9百万円増加しました。その主な要因は、現金及び預金が4億4百万円増加したこと、また、主に新造貨客船「さるびあ丸」及び新造高速ジェット船「セブンアイランド結（ゆい）」の取得に伴う未収消費税が8億2千6百万円増加したことなどによるものです。

負債は162億2千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億2千万円増加しました。その主な要因は、借入金が27億9千2百万円増加したのに対し、固定資産圧縮未決算勘定が15億2千9百万円減少したことなどによるものです。

純資産は50億3千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億6千1百万円減少しました。その主な要因は、利益剰余金が1億7千6百万円減少したこと、また、その他有価証券評価差額金が6千8百万円減少したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による当社グループへの影響を合理的に算定することが困難であったため未定としておりましたが、このたび、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、連結及び個別の通期業績予想を公表いたしました。

詳細につきましては、2020年11月9日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,530	1,935
受取手形及び営業未収金	1,293	1,251
商品及び製品	66	46
原材料及び貯蔵品	451	448
その他	131	1,239
貸倒引当金	△3	—
流動資産合計	3,471	4,922
固定資産		
有形固定資産		
船舶	16,267	16,405
減価償却累計額	△10,809	△4,010
船舶（純額）	5,457	12,394
建物及び構築物	1,619	1,628
減価償却累計額	△1,134	△1,156
建物及び構築物（純額）	484	471
土地	286	286
建設仮勘定	7,731	282
その他	1,934	1,843
減価償却累計額	△1,595	△1,545
その他（純額）	338	297
有形固定資産合計	14,298	13,732
無形固定資産	148	136
投資その他の資産		
投資有価証券	1,673	1,644
繰延税金資産	366	684
その他	168	154
貸倒引当金	△32	△19
投資その他の資産合計	2,176	2,463
固定資産合計	16,624	16,332
資産合計	20,095	21,254

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	761	772
短期借入金	2,478	2,293
未払法人税等	74	159
賞与引当金	37	129
事業撤退損失引当金	—	4
その他	764	700
流動負債合計	4,117	4,059
固定負債		
長期借入金	7,538	10,517
繰延税金負債	11	7
退職給付に係る負債	1,262	1,239
特別修繕引当金	251	328
固定資産圧縮未決算勘定	1,529	—
その他	90	70
固定負債合計	10,684	12,163
負債合計	14,802	16,222
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,100	1,100
資本剰余金	693	693
利益剰余金	3,305	3,129
自己株式	△10	△10
株主資本合計	5,089	4,912
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	125	57
その他の包括利益累計額合計	125	57
非支配株主持分	78	61
純資産合計	5,293	5,031
負債純資産合計	20,095	21,254

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高		
海運業収益	6,446	5,668
その他事業収益	2,206	1,124
売上高合計	8,652	6,792
売上原価		
海運業費用	5,530	4,952
その他事業費用	2,024	1,252
売上原価合計	7,555	6,204
売上総利益	1,097	587
販売費及び一般管理費	1,037	906
営業利益又は営業損失(△)	60	△319
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	11	9
持分法による投資利益	82	66
貸倒引当金戻入額	13	15
賃貸料	10	10
その他	20	93
営業外収益合計	138	195
営業外費用		
支払利息	52	67
その他	7	6
営業外費用合計	60	73
経常利益又は経常損失(△)	138	△197
特別利益		
国庫補助金	—	3,544
固定資産売却益	—	178
特別利益合計	—	3,722
特別損失		
事業撤退損失引当金繰入額	—	4
事業撤退損	—	258
固定資産圧縮損	—	3,544
特別損失合計	—	3,806
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	138	△281
法人税、住民税及び事業税	150	163
法人税等調整額	△117	△295
法人税等合計	33	△132
四半期純利益又は四半期純損失(△)	105	△149
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△34	△16
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	139	△132

四半期連結包括利益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	105	△149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	△68
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	3	△68
四半期包括利益	108	△217
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	142	△201
非支配株主に係る四半期包括利益	△34	△16

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

当社は、新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の広がり方や収束時期等に関して不確実性が高い事象であると考えております。

本件が当社グループの業績に与える影響について、第2四半期連結累計期間末においては、「2020年12月期の一定期間にわたり当該影響が継続する」と仮定しておりましたが、その後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、「2021年以降の一定期間においても当該影響が継続する」と仮定を変更し、会計上の見積りをおこなっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	レストラン 事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,446	1,026	641	302	235	8,652	—	8,652
セグメント間の 内部売上高又は振替高	76	110	0	1	17	206	△206	—
計	6,523	1,136	642	303	253	8,858	△206	8,652
セグメント利益 又は損失(△)	375	99	△70	24	2	432	△372	60

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△372百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△372百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	レストラン 事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,668	740	66	144	172	6,792	—	6,792
セグメント間の 内部売上高又は振替高	65	67	0	0	12	147	△147	—
計	5,733	808	67	145	184	6,939	△147	6,792
セグメント利益 又は損失(△)	221	64	△191	△37	△38	18	△337	△319

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△337百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△339百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。